

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	博多大学
-------------	-------	-----	------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校等の設置に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和5年度の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とそに対応を記載してください。

高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。

確認を受けている

☐ チェック

確認の対象に該当しない

☒ チェック

②

十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック

③

産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育がカリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の特組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）

計画通りに進んでいる

☒ チェック

④

特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック

⑤

計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック

⑥

特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック

⑦

社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック

⑦

学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック

⑧

入学定員が20名以上増加する計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック

⑨

事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）

計画通りに進んでいる、又は設置等を行った

☒ チェック

⑩

大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80％を満たす計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック

⑪

フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5％を上乗せした水準以上とする計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	博多大学
-------------	-------	-----	------

⑫	計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。		
	計画通りに進んでいる	☒ チェック	
⑬	選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文科科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。		
	計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	☒ チェック	
⑭	文科科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。		
	認定を受けておらず申請する意向もない	☒ チェック	

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

- ☒ チェック
- a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- ☐ チェック
- b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- ☒ チェック
- c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
企業や自治体と連携したPBL演習科目を専門応用科目として導入する副専攻の全てに取り入れ、企業や自治体の課題を具体的に解決する課程を学び取る授業を展開する計画である。これら企業や自治体と連携したPBL演習科目を展開するためにも、その基盤となる産学官連携を推進する場として設置予定の共同研究施設（高速大容量通信やパソコンの共同利用設備を擁する）を用いた地方自治体との連携の仕組みを構築する計画である。 グローバルにデジタル化が進む現在、海外大学と連携した教育研究の推進は不可欠であり、単位互換制度の充実や交換留学プログラムの充実を回るため大学間交流を進める計画である。また、日本でも徐々に認知度が高まってきたMOOCs（Massive Open Online Courses）に参画することでこれらプラットフォームを介して大学・企業と広く連携して授業や講座を構築し、インターネットを通じてオンライン配信することを計画している。参加するMOOCsとして、2019年9月現在196の大学・企業と提携し3,751の講座と16の学位を提供しているCourseraを検討している。	4つの専攻領域の内容に特化したPBL演習科目を取り入れ、企業や自治体の課題を具体的に解決する課程を学ぶカリキュラムを策定し、認可申請を行なった。なお、教育の充実や研究の推進に必要な設備として、高速大容量通信やコンパクト・スーパーコンピュータの導入を含んだ申請である。 大学設置認可後は、単位互換制度の充実や交換留学プログラムの充実を回るため、大学間交流を進める計画を検討していく。具体的にはMOOCsに参加することも検討し、プラットフォームを介して大学・企業と広く連携して授業や講座を構築し、インターネットを通じてオンライン配信することを計画している。	

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- ☒ チェック
- a.入学者選抜における科目の見直し
- ☒ チェック
- b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- ☒ チェック
- c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- ☒ チェック
- d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスティングへの対応）
- ☒ チェック
- e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
文系・理系を問わず、また普通高校のみではなく、商業高校や工業高校の卒業生が入学できる入試科目の設定、選抜方法を採用する計画である。女子学生の確保の面でも、データサイエンス学科の教育内容を高等学校に周知する広報の取り組みに注力し、文系・理系の別がない教育プログラムであることの理解を深める広報を計画している。また、高大連携、出前講座、オープンキャンパス（対面開催およびネット開催）を通じて、データ駆動型社会においてデータエンジニア、データアナリスト、データサイエンティストのような役割を担ってそれぞれの職場で働くのかについて、正しい職業イメージの定着を回る計画である。リカレント講座を定期的に開設して社会人のリスティングを支援し、また、社会人入試を導入して社会人学生の受け入れを強化する計画である。留学生の受け入れについてはとくに注力する考えで、中でも近隣アジア諸国からの留学生受け入れについてはできるだけ早期に進める計画で、教員候補者らのこれまでの留学生支援実績を基盤として具体的な対象国を絞った効果的な留学生受け入れプログラムを構築し、教員候補者のコネクションを活用した海外広報を展開する計画である。	文系・理系を問わない入試科目の設定と普通高校のみではなく、商業高校や工業高校の卒業生が入学できる選抜方法を策定して設置認可申請を行なった。 大学の認知度を上げるための広報活動の一環として、大学の概要を示したパンフレットを作成するなど、広報媒体の製作に取り組んでいる。 実際の広報活動としては、福岡県内および隣接県にある高校を訪問し、丁寧な大学の説明を実施している。文系・理系を問わない学部であることと教育内容の周知を行なう活動を進めている。なお、設置認可後は遠くから九州全域の高校を訪問し、大学の認知度を上げることを計画している。また、高大連携、出前講座、オープンキャンパス（対面開催およびネット開催）を通じて、データ駆動型社会においてデータエンジニア、データアナリスト、データサイエンティストがどのような役割を担ってそれぞれの職場で働くのかについて、正しい職業イメージを高校生に伝えるための活動を継続的に実施する計画である。 リカレント講座を開講するための校舎整備は概ね完了した。また、近隣アジア諸国からの留学生受け入れについては、近隣日本語学校との連携を進めている。	

＜合計＞

[illegible]

本事業対象となる学部等の個数	1
----------------	---

<内訳>

(1)

[illegible]

大学名	博多大学
-----	------

2.理・工・農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況

[illegible]

大学名	博多大学
-----	------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	***	***																	
		入学者数	人	***	***																	
	その他の学期	入学定員	人	***	***																	
		入学者数	人	***	***																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	***	***																	
		入学者数(B)	人	***	***																	
		入学定員充足率 (B/A)	倍	***	***																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	***	***																	
		編入学定員	人	***	***																	
		在籍者数(D)	人	***	***																	
		編入学者数	人	***	***																	
		収容定員充足率 (D/C)	倍	***	***																	

4.外部資金の状況（全学）

年度			R1年度	R2年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
改組状況			選定－5年	選定－4年	選定－3年	選定－2年	選定－1年	選定													
項目	単位																				
外部資金獲得額	千円		0	0	0	0	0	0													

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間に於ける各年度の外部資金獲得 額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分 の平均）(E)	千円	0
本事業による助成金の額(F)	千円	1,008,850
フェーズ3の助成期間終了時までに達成する額 (E+F×2.5%)	千円	25,221

特記事項